

基本計画書

基本計画書										
事項	記入欄								備考	
計画の区分	大学院研究科の専攻の設置									
フリガナ設置者	ガッコウホクレン カサキケンコウフクシダガク 学校法人 高崎健康福祉大学									
フリガナ大学の名称	カサキケンコウフクシダガク 高崎健康福祉大学大学院 (Takasaki University Graduate School of Health and Welfare)									
大学本部の位置	群馬県高崎市中大類町37-1番地									
大学の目的	<p>本学は、教育基本法および学校教育法に従い、健康と福祉にかかわる諸問題を情報処理、福祉及び栄養、薬学、看護、理学療法及び子ども教育の観点から総合的に捉え、快適な人間生活の方策を攻究すると共に健康を基調とした人間中心型の福祉社会の創造に貢献できる指導的な人材の養成を目的とする。</p>									
新設学部等の目的	<p>保健医療学研究科理学療法専攻修士課程は、人々の健康の維持増進・疾患・障害からの回復および予防のためにリハビリテーション専門職の1つである理学療法士として貢献するための理論と実践に主眼を置いた高度医療専門職者教育を志向し、「人類の健康と福祉に貢献する」とする本学建学の理念の実践をさらに深め、チーム医療におけるリーダーとして、高度医療専門職者の養成を主とし、理学療法学の発展に貢献する教育・研究者の育成を目的とする。</p>									
新設学部等の概要	新設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	開設時期及び開設年次	所在地		
	保健医療学研究科 [Graduate school of Health Care] 理学療法専攻 [Master Course of Physical Therapy] 計	年	人	年次人	人	修士 (理学療法)	平成30年4月 第1年次	群馬県高崎市 中大類町501番地		
【基礎となる学部】 保健医療学部 理学療法学科 14条特例の実施										
同一設置者内における変更状況 (定員の移行、名称の変更等)		該当なし								
教育課程	新設学部等の名称	開設する授業科目の総数				卒業要件単位数				
	保健医療学研究科 理学療法専攻	講義	演習	実験・実習	計	30 単位				
		19 科目	9 科目	0 科目	28 科目					
教員の概要	学部等の名称			専任教員等					兼任教員等	
	新設分	保健医療学研究科 理学療法専攻(修士課程)	教授	准教授	講師	助教	計	助手	人	
			人	人	人	人	人	人	人	
			9 (9)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	19 (19)	
	計		9 (9)	2 (2)	3 (3)	0 (0)	14 (14)	0 (0)	— (—)	
	既設分	健康福祉学研究科	5 (5)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	7 (7)	0 (0)	2 (—)	
		医療福祉情報学専攻(修士課程)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	1 (—)	
		保健福祉学専攻(博士前期課程)	7 (7)	1 (1)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	1 (—)	
		保健福祉学専攻(博士後期課程)	8 (8)	2 (2)	0 (0)	0 (0)	10 (10)	0 (0)	1 (—)	
		食品栄養学専攻(博士前期課程)	8 (8)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	8 (8)	0 (0)	— (—)	
食品栄養学専攻(博士後期課程)		11 (11)	3 (3)	2 (2)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	3 (—)		
薬学研究科 薬学専攻博士課程		11 (11)	4 (4)	1 (1)	1 (1)	17 (17)	0 (0)	44 (—)		
保健医療学研究科 看護学専攻(修士課程)	42 (42)	12 (13)	3 (3)	1 (1)	58 (59)	0 (0)	— (—)			
計		42 (42)	12 (13)	3 (3)	1 (1)	58 (59)	0 (0)	— (—)		
合計		51 (51)	14 (15)	6 (6)	1 (1)	72 (73)	0 (0)	— (—)		

教員以外の職員の概要	職 種		専 任	兼 任	計	大学全体				
	事 務 職 員		53 (53)	12 (12)	65 (65)					
	技 術 職 員		0 (0)	0 (0)	0 (0)					
	図 書 館 専 門 職 員		5 (5)	3 (3)	8 (8)					
	そ の 他 の 職 員		2 (2)	1 (1)	3 (3)					
	計		60 (60)	16 (16)	76 (76)					
校 地 等	区 分	専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
	校 舎 敷 地	29,884.37 m ²	0 m ²	0 m ²	29,884.37 m ²					
	運 動 場 用 地	12,912.40 m ²	0 m ²	0 m ²	12,912.40 m ²					
	小 計	42,796.77 m ²	0 m ²	0 m ²	42,796.77 m ²					
	そ の 他	22,763.00 m ²	0 m ²	0 m ²	22,763.00 m ²					
	合 計	65,559.77 m ²	0 m ²	0 m ²	65,559.77 m ²					
校 舎		専 用	共 用	共用する他の 学校等の専用	計	大学全体				
		38,856.03 m ² (38,856.03 m ²)	0 m ² (0 m ²)	0 m ² (0 m ²)	38,856.03 m ² (38,856.03 m ²)					
教室等	講義室	演習室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体				
	37 室	34 室	49 室	5 室 (補助職員 人)	1 室 (補助職員 人)					
専 任 教 員 研 究 室		新設学部等の名称		室 数		申請研究科全体				
		保健医療学研究科 理学療法学専攻		38 室						
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称	図書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標本 点	大学全体		
		保健医療学研究科	61,753 [5,069]	694 [69]	7,254 [5,416]	2,093	1,555		8,467	
		61,753 [5,069]	694 [69]	7,254 [5,416]	(2,093)	(1,555)	(8,467)			
	計	61,753 [5,069]	694 [69]	7,254 [5,416]	2,093	1,555	8,467			
		61,753 [5,069]	694 [69]	7,254 [5,416]	(2,093)	(1,555)	(8,467)			
	図書館	面積	閲覧座席数		収 納 可 能 冊 数					
	1,352.47 m ²	299 席		141,900 冊						
体育館	面積	体育館以外のスポーツ施設の概要								
	3,893.85 m ²	テニスコート4面、フットサル場2面、グラウンド								
経 費 の 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分	開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	申請研究科全体
		教員1人当り研究費等		500千円	500千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		共同研究費等		2,250千円	2,250千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
		図書購入費	0千円	300千円	300千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円	
	設備購入費	0千円	2,000千円	1,000千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
	学生1人当り納付金			第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
			800千円	700千円	— 千円	— 千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要			私立大学等経常費補助金、資産運用収入、雑収入 等							

大 学 の 名 称	高崎健康福祉大学								
	学 部 等 の 名 称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所在地
既 設 大 学 等 の 状 況	健康福祉学研究科 (合計)	—	15	—	35	—	—	—	群馬県高崎市 中大類町37-1
	医療福祉情報学(専攻修士課程)	2	3	—	6	修士 (医療福祉情報学)	0.33	平成 17年度	
	保健福祉学専攻(博士前期課程)	2	3	—	6	修士 (保健福祉学)	0.50	平成 17年度	
	食品栄養学専攻(博士前期課程)	2	4	—	8	修士 (食品栄養学)	0.50	平成 17年度	
	(小計)	—	10	—	20	—	0.45	—	
	保健福祉学専攻(博士後期課程)	3	3	—	9	博士 (保健福祉学)	0.99	平成 19年度	
	食品栄養学専攻(博士後期課程)	3	2	—	6	博士 (食品栄養学)	1.00	平成 19年度	
	(小計)	—	5	—	15	—	1.00	—	
	薬学研究科 (合計)	—	3	—	12	—	0.33	—	群馬県高崎市 中大類町60
	薬学専攻(博士後期課程)	4	3	—	12	博士 (薬学)	0.33	平成 24年度	
	保健医療学研究科 (合計)	—	6	—	12	—	1.00	—	群馬県高崎市 中大類町501
	看護学専攻(修士課程)	2	6	—	12	修士 (看護学) 修士 (助産学)	1.00	平成 24年度 平成 26年度	
	健康福祉学部 (合計)	—	210	—	875	—	1.07	—	群馬県高崎市 中大類町37-1
	医療情報学科	4	70	2年次 2 3年次 2	290	学士 (医療情報学)	1.01	平成 13年度	
	社会福祉学科	4	60	2年次 5 3年次 5	265	学士 (社会福祉学)	1.15	平成 13年度	
	健康栄養学科	4	80	—	320	学士 (健康栄養学)	1.08	平成 13年度	
	薬学部 (合計)	—	90	—	540	—	1.09	—	群馬県高崎市 中大類町60
	薬学科	6	90	—	540	学士 (薬学)	1.09	平成 18年度	
	保健医療学部 (合計)	—	140	—	540	—	1.12	—	群馬県高崎市 中大類町501
	看護学科	4	100	—	380	学士 (看護学)	1.10	平成 18年度	
理学療法学科	4	40	—	160	学士 (理学療法学)	1.18	平成 22年度		
人間発達学部 子ども教育学科	4	80	3年次	330	学士 (教育学)	1.07	平成 24年度		
附属施設の概要	<p>名 称：高崎健康福祉大学総合福祉研究所 目 的：福祉関連領域の学内外の研究者が共同して行う研究の支援 所在地：群馬県高崎市中大類町37-1番地</p> <p>名 称：子ども・家族支援センター 目 的：子どもと家族における心と体の問題についての相談支援 所在地：群馬県高崎市中大類町58-2番地</p> <p>名 称：ボランティア・市民活動支援センター 目 的：学生のボランティア・市民活動への参加と大学の地域貢献の促進 所在地：群馬県高崎市中大類町58-2番地</p> <p>名 称：健大クリニック、訪問看護ステーション、女性・妊産婦ケアセンター 目 的：地域の方々の健康維持や増進の支援、訪問看護・女性・妊産婦ケア等の相談支援 所在地：群馬県高崎市中大類町200-2番地</p> <p>名 称：看護実践開発センター 目 的：地域における保健医療実践に携わる看護職の質的能力向上等の相談支援 (主に認定看護師教育課程) 所在地：群馬県高崎市中大類町501番地</p>								

平成26年度入学定員増(20人)
80人→100人
3年次編入学定員減(△5人)
5人→0人

教 育 課 程 等 の 概 要

（保健医療学研究科 理学療法学専攻 修士課程）

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考			
			必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手				
共通科目	共通分野	保健医療統計特論	1前	2			○								兼1	オムニバス	
		チーム医療特論	1前	1			○			1					兼3		
		チーム医療アプローチ特別演習	1後	1				○		2					兼1		
		地域支援学特論	1前		1			○		1					兼3		
		健康科学特論	1前		2			○		1					兼2		
		病態生理学特論	1前		2			○		2					兼1		
		医療栄養学特論	1前		2			○							兼1		
		薬物動態学特論	1前		2			○							兼1		
		医療倫理学特論	1後		2			○							兼2		
		症状マネジメント特論	1後		2			○							兼7		
		英文読解・英作文の技法	1後		1				○								兼1
		小計（11科目）	—	4	14	0				5	0	0	0	0	兼19		
専門科目	理学療法学領域共通科目	研究倫理と理学療法学研究法	1前	2				○		4						オムニバス	
		障害予防学特論	1前		2			○		3	1					オムニバス	
		自立生活支援学特論	1後		2			○		4	1					オムニバス	
		地域リハマネージメント特論	1後		2			○		3	1					オムニバス	
		障害評価・解析学特論	1前		2			○		3	1	1				オムニバス	
		臨床推論特論	1後		2			○		4	2					オムニバス	
		理学療法実践学特論	1後		2			○		5	2					オムニバス	
		小計（7科目）	—	2	12	0				7	2	1	0	0			
	理学療法学分野	地域理学療法学領域	地域リハビリテーション特論	1前	2				○		4	1	1				オムニバス
			地域理学療法学特論	1後	2				○		4	1					オムニバス
			地域リハビリテーション演習	1前	2					○	4	1	1				共同担当
			地域理学療法学演習	1後	2					○	4	1	1				共同担当
			地域理学療法学特別研究	2通年	8					○	4	1	1				共同分担方式
			小計（5科目）	—	16	0	0				4	1	1	0	0		
	臨床理学療法学領域	臨床理学療法学領域	臨床理学療法学特論Ⅰ	1前	2				○		4	1					オムニバス
			臨床理学療法学特論Ⅱ	1後	2				○		4	1					オムニバス
			臨床理学療法学演習Ⅰ	1前	2					○	3	1	2	削除			共同担当
			臨床理学療法学演習Ⅱ	1後	2					○	3	1	2	削除			共同担当
			臨床理学療法学特別研究	2通年	8					○	3	1	2	削除			共同分担方式
			小計（5科目）	—	16	0	0				5	1	2	0	0		
合計（28科目）			—	38	26	0			9	2	3	0	0	兼19			
学位又は称号	修士 （理学療法学）	学位又は学科の分野	保健衛生学関係 （リハビリテーション関係）														
卒業要件及び履修方法										授業期間等							
共通科目必修4単位、理学療法学領域間共通科目必修2単位、共通分野もしくは理学療法学分野から選択8単位以上、地域理学療法学領域もしくは臨床理学療法学領域から必修16単位（特別研究を含む）の合計30単位以上を修得し、修士論文を提出し、本大学院が行う修士論文の審査及び最終試験に合格すること。										1学年の学期区分		2学期					
										1学期の授業期間		15週					
										1時限の授業時間		90分					

授業科目の概要 目次

共通科目 共通分野

1	保健医療統計特論	… P.	1
2	チーム医療特論	… P.	1
3	チーム医療アプローチ特別演習	… P.	2
4	地域支援学特論	… P.	3
5	健康科学特論	… P.	3
6	病態生理学特論	… P.	4
7	医療栄養学特論	… P.	4
8	薬物動態学特論	… P.	5
9	医療倫理学特論	… P.	5
10	症状マネージメント特論	… P.	6
11	英文読解・英作文の技法	… P.	6

理学療法学領域共通科目

12	研究倫理と理学療法学研究法	… P.	7
13	障害予防学特論	… P.	8
14	自立生活支援学特論	… P.	9
15	地域リハマネージメント特論	… P.	10
16	障害評価・解析学特論	… P.	11
17	臨床推論特論	… P.	12
18	理学療法実践学特論	… P.	13

地域理学療法学領域

19	地域リハビリテーション特論	… P.	15
20	地域理学療法学特論	… P.	16
21	地域リハビリテーション演習	… P.	17
22	地域理学療法学演習	… P.	17
23	地域理学療法学特別研究	… P.	18

臨床理学療法学領域

24	臨床理学療法学特論Ⅰ	… P.	19
25	臨床理学療法学特論Ⅱ	… P.	20
26	臨床理学療法学演習Ⅰ	… P.	21
27	臨床理学療法学演習Ⅱ	… P.	21
28	臨床理学療法学特別研究	… P.	21

授 業 科 目 の 概 要			
(保健医療学研究科 理学療法専攻 修士課程 共通分野)			
科目区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
共 通 科 目	共 通 分 野	(概要) 研究におけるエビデンスについて量的研究と質的研究の比較をもとに教授する。保健医療分野における論文作成のための量的研究法における統計学の基礎を学び、統計学的推定・検定の方法、標本数の定め方、因果推論モデルについて教授する。更に、多変量解析の基礎から応用（重回帰分析、主成分分析、因子分析）まで、実践的に適用可能な統計学手法を教授する。	
		(概要) 施設から在宅、地域を貫くチーム医療の基本的考え方と求められる資質について教授する。呼吸リハビリテーション、地域リハビリテーション、認知症ケアにおけるチーム医療の今日的課題と今後の在り方について検討し、患者・家族の健康問題をリハビリテーション専門職や看護専門職の協働の力で解決しQOLの向上を目指すためのチーム医療を担う高度専門職の役割と実践について教授する。 (オムニバス方式／全8回) (4 浅香 満／2回) リハビリテーション分野におけるチームアプローチについて教授する。リハビリテーション医療は当初よりチームアプローチを基本として構築されてきた。その経緯の中から、他職種との連携の必要性、具体的な連携の取り方などについて学習する。良いチームアプローチは関係する職種の正しい理解と、システムの理解が基本となる。包括的呼吸リハビリテーションチームや地域連携パスなどを通して、具体的に上記の内容について学習する。 (16 池田 優子／3回) 変化する医療現場において必要とされる能力を明確化し、チーム医療を担う中核的存在としての看護職の位置づけについて、歴史の変遷を整理することを通して明確化する。さらに他職種の専門性についての理解を深め、看護師に求められるチーム調整能力の獲得における課題について教授する。 (33 渡邊 秀臣／1回) チーム医療の基本的考え方と求められる資質や今日的課題について教授する。 (34 山上 徹也／2回) ①群馬県の地域リハ広域支援センターや介護予防サポーター養成研修を紹介し、地域のボランティアスタッフと専門職（保健師、理学療法士、作業療法士）が協力して実施した事業を例に挙げ、地域支援事業や介護予防事業におけるチームのあり方、専門職の役割について共に考え、②自身が取り組んでいる脳活性化リハや作業回想法を紹介し、介護保険施設や認知症ケア場面など、限られたマンパワーの中で対象者の能力を引き出すための効果的なチーム医療・チームケアを推進するための現状と課題について教授する。	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	分野	チーム医療 アプローチ特別演習	<p>(概要)</p> <p>患者およびその家族の健康問題を解決し、日常生活における様々な問題に対処することでQOLの向上を目指すために、多職種によるチームアプローチが必要となる事例を学習する。各専門職（看護師、医師、リハビリテーション専門職、栄養士、薬剤師、介護福祉士、ソーシャルワーカーなど）に求められる機能を検討し、チームアプローチを推進するための、それぞれの働きや得意分野、守備範囲を教授した上で、機能的・効率的医療提供に結びつくコーディネート法を教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(5 吉田 剛／4回)</p> <p>リハビリ専門職の役割、実際について学習する。プレゼンテーションにより、コミュニケーション能力の増進をはかる。</p> <p>(6 田中 聡一／7回)</p> <p>医師、および他の職種の役割、実際について学習する。プレゼンテーションにより、コミュニケーション能力の増進をはかる。</p> <p>(19 棚橋 さつき／4回)</p> <p>看護師の役割、実際について学習する。プレゼンテーションにより、コミュニケーション能力の増進をはかる。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
共通 科目	地域支援学特論	<p>(概要)</p> <p>在院日数の短縮による病院から在宅・地域への医療の移行や少子高齢化社会における家族の多様化が、健康問題を抱える個人を含む家族や地域にもたらす様々な問題について検討し、個人・家族・地域を繋いだ包括的なサポートについて教授する。</p> <p>独居老人の生活、老老介護の問題、介護負担、育児放棄や虐待などの社会問題には家族の抱える問題が潜んでいることを踏まえ、地域における療養者、家族の生活を支える看護支援やリハビリテーション、地域支援のあり方を教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全 8 回)</p> <p>(4 浅香 満／2回)</p> <p>在宅生活を継続するためのリハビリテーションの役割について、専門職の連携や課題について考察できるよう教授する。</p> <p>(17 大澤 幸枝／2回)</p> <p>地域における認知症患者・家族の課題、支援方法について教授する。</p> <p>(19 棚橋 さつき／2回)</p> <p>在宅看護学的視点から、患者・家族への地域支援の在り方や今後の展望について教授する。</p> <p>(21 倉林 しのぶ／2回)</p> <p>地域における倫理的課題を家族関係から教授する。</p>	オムニバス方式
	健康科学特論	<p>(概要)</p> <p>健康寿命の延伸には、栄養、身体活動・運動、心の安静、生体防御機構(免疫)の維持が必須である。栄養については、「医療栄養学特論」において教授するので、本授業では、健康の仕組み、身体活動・運動、心の安静、免疫の健康維持における重要性を科学的根拠に基づき教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全 15 回)</p> <p>(2 入澤 孝一／4回)</p> <p>身体活動・運動が、エネルギー消費による肥満予防や筋力増強だけでなく、骨粗しょう症の予防、血液循環改善など、健康維持に重要な役割を果たしている事を、科学的根拠に基づいて教授する。</p> <p>(22 桑原 敦志／6回)</p> <p>健康維持のためのホメオスタシス系の相互作用全般について教授する。さらに、ホメオスタシス系の一つである生体防御(免疫)システムについて教授する。</p> <p>(28 角野 善司／5回)</p> <p>ストレスは、健康障害の主要因の一つであり、心の安静はストレスによる健康障害解除に必須である。ストレスの引き起こす生体反応と健康障害のメカニズム及びストレスへの対策について教授する。</p>	オムニバス方式

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
共 通 科 目	病態生理学特論	<p>(概要)</p> <p>病態を的確に理解し、根拠に基づいた医療実践のために必要な基礎医学的知識を教授する。病態を的確かつ経時的に把握するための医療手段の一つとして臨床検査があり、現代医療の中心的存在となっており、その基礎事項を教授する。また、病態生理学を基礎から学習し、科学的な判断ができるようにする。特に病気の発症や進行、重症化に大きく関わる知識を学習し、医療提供者として必要な基礎事項を指導する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(1 鈴木 忠／3回)</p> <p>循環器および内分泌器の病態生理学を詳細に教授する。それぞれの病態生理について、疾患ごとにその特徴について説明できるよう指導する。</p> <p>(6 田中 聡一／6回)</p> <p>循環器、腎・泌尿器系、神経系、そして運動・感覚系の病態生理学を詳細に教授する。それぞれの病態生理について、疾患ごとにその特徴について説明できるよう指導する。</p> <p>(22 桑原 敦志／6回)</p> <p>病態を客観的かつ効率的に判断する手法に臨床検査法があり、その手法と意義について教授する。症例を挙げて、適切な検査法を選べるように指導する。</p>	オムニバス方式
	医療栄養学特論	<p>(概要)</p> <p>傷病者の栄養状態の評価し、適切な栄養補給方法を選択するために、栄養スクリーニング及び栄養アセスメントを実施し、栄養ケア計画を立案する。また疾病の栄養学的問題点を改善し、治療効果を向上させるための栄養療法を提案する。そして、チーム医療における多職種協働の中で、職種間をリンクさせる役割を担う看護を目指すことを目的として、臨床現場における医療栄養について教授する。講義のほか、文献紹介・文献購読及び対話・発表を含めた授業内容とする。</p>	

科目 区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
共通 科目	薬物動態学特論	<p>(概要)</p> <p>薬物の生体膜透過機構、生体内での吸収、体内分布、代謝および排泄、ファーマコキネティクス理論による体内薬物濃度の解析と血中薬物濃度モニタリング (TDM) の意義を教授する。さらに、患者ごとの病態や年齢、遺伝子多型、併用薬の違いによる薬物の体内動態要因の変動を教授し、患者ごとの薬物の投与経路、投薬量および投薬間隔を実際の事例を基に解析・決定する手法を教授する。</p>	
	医療倫理学特論	<p>(概要)</p> <p>医療技術の進歩に伴い、臨床の倫理的問題は山積されている。また、ベッドサイドの倫理問題は、患者、家族、医療者それぞれの「価値観」が大きく影響し、複雑化・多様化している。本講義では、「生殖医療」「脳死」「臓器移植」など、近年の医療倫理学に関する諸問題を学ぶだけにとどまらず、臨床現場で起こりうる個々の倫理的問題について、具体的な事例を用い理論的な検討を行う。また、文献購読やグループディスカッションを通して、“医療を行う側”と“医療を受ける側”それぞれの立場における価値観の相違や、倫理的問題を取り巻く背景を理解しながら問題解決の方策を探る。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(21 倉林 しのぶ／8回)</p> <p>事例検討や文献購読を通じ、原則や倫理綱領のみに捉われず、日常的なケアのなかで倫理的問題に気づき倫理的判断ができる能力の習得を目指す。事例をもとに「自己決定」「インフォームド・コンセント」「告知」「守秘義務」などのテーマでグループディスカッションを行い、ケアを実施する立場である医療者サイドと、患者・家族など医療を受ける立場からの“よりよい医療”について検討する。臨床における倫理的課題の背景とさまざまな人間関係を理解し、その解決に向けたプロセスの方法について教授する。</p> <p>(30 大石 桂子／7回)</p> <p>先端医療における「脳死・臓器移植」「生殖医療」「エンハンスメント」などのトピックを題材に、医療に関わる「倫理学の基礎」を教授する。また、問題の背景にある現代の多様な価値観を構築してきた倫理思想、宗教、文化なども取り上げ、医療における患者の人権、医師・患者関係、終末期医療などの倫理問題について議論を行い、根拠をもって問題を判断し、論理的に表現する力を養う。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	分野	症状マネジメント特論	<p>(概要)</p> <p>UCLAが開発した症状マネジメント理論を示し、看護実践におけるいくつかの症状について、症状のメカニズムと出現形態、対象の症状の体験、症状マネジメントを促す看護および看護の成果を評価する視点について教授する。加えて、学生の看護実践体験においてマネジメントが困難であった事例をもとに、独創的な症状マネジメント方略を探究し、症状マネジメントモデルを作成できる様教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(17 大澤 幸枝/1回) 認知症患者の症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護について教授する。</p> <p>(18 田邊 要補/1回) 統合失調症患者の症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護について教授する。</p> <p>(20 石田 順子/6回) がん患者の症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護について教授する。 また、看護実践において症状マネジメントが困難である事例を用いて、症状マネジメントモデルを用いて、統合的アプローチを作成するプロセスを示し、学生のグループワークとディスカッションを促進する。</p> <p>(23 吉田 久美子/1回) がん患者の症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護について教授する。</p> <p>(24 砂賀 道子/2回) がん患者の症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護について教授する。 また、看護実践において症状マネジメントが困難である事例を用いて、症状マネジメントモデルを用いて、統合的アプローチを作成するプロセスを示し、学生のグループワークとディスカッションを促進する。</p> <p>(25 武田 貴美子/1回) 腎不全患者の症状のアセスメントを症状マネジメントを促す看護について教授する。</p> <p>(26 櫻井 美和/3回) UCLAが開発した症状マネジメント理論について教授する。また、小児がんの子ども症状のアセスメントと症状マネジメントを促す看護について教授する。</p>	オムニバス方式
		英文読解・英作文の技法	<p>(概要)</p> <p>保健医療学の英語論文を読み、クリティークするための基礎的能力を教授する。研究論文のabstractを書く能力を教授する。加えて、保健医療学の英語論文で使われる英語のコーパスの作成およびその利用法を教授する。</p>	

授 業 科 目 の 概 要			
（保健医療学研究科 理学療法専攻 修士課程 理学療法学共通領域分野）			
科目区分	授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
専 門 科 目	理学療法学領域共通科目 研究倫理と理学療法学研究法	<p>（概要）</p> <p>研究倫理に関する最新の考え方を理解したうえで、理学療法におけるエビデンス構築のための研究の意義・役割および研究に必要な基礎的知識を教授する。人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、妥当性・信頼性の高い研究とはどのようなものか、研究をクリティークするための視点を示す。実験研究、準実験研究、調査研究、尺度開発および介入研究のプロセス（研究テーマの明確化、文献検討、研究デザインの選択、対象の選定、データ収集方法、データ分析方法、結果、考察）について教える。</p> <p>（オムニバス方式／全 15回）</p> <p>（3 居村 茂幸／4回）</p> <p>人を対象とする研究の特殊性・倫理性を踏まえ、理学療法におけるエビデンス構築のための研究の意義・役割、研究倫理について概論的に教授する。また、科学的な研究論文の書き方などについて概論的に教授する。介入研究については、その介入方法の選択や介入効果を判定するための帰結評価項目の選定などの手法について教授すると同時に、より科学的研究手法にしていくために必要なバイアスの除去などについて教授し、学生発表に対して実践的指導を行う。</p> <p>（6 田中 聡一／2回）</p> <p>研究倫理に関する指針に対する理解を深め、各学生の研究計画における倫理的配慮の必要性と具体的な方法に関する基礎知識が身につくように教授する。また、地域リハビリテーションシステムやニード調査、介護負担やQOLなどの場面では調査研究を行う場合があるが、調査研究の手法やそのための準備について教授する。</p> <p>（8 解良 武士／5回）</p> <p>理学療法学における研究デザインの種類（実験研究、準実験研究、調査研究、尺度開発および介入研究）およびその特徴や対象者の選定方法、除外規定、説明と同意の手順及び考え方や倫理的配慮について教授する。</p> <p>また、既存の評価尺度では有効な評価ができないものも多く、簡便に行うことができる新たな評価尺度開発に関する研究についての研究方法についても教授する。尺度開発については、学生発表を行わせて、実践的な教育指導を行う。</p> <p>（9 竹内 伸行／4回）</p> <p>理学療法学におけるエビデンス構築のための研究を行うためには、研究計画に基づいたデータ収集が行えるように正確なデータを収集できるよう精度を高めるための準備が必要である。測定方法の検討を含めた予備検討の必要性などを教授する。また、臨床場面においてもどのような形でデータ収集を行っていくべきか、大規模な研究につながるためには、どのようなフォーマットを共有していくべきか、そのデータの管理および解析方法などについて教授する。</p>	オムニバス方式

科目 区分		授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
専 門 科 目	理 療 学 法 領 域 共 通 科 目	障害予防学特論	<p>(概要)</p> <p>超高齢社会において地域在住高齢者が、健康を維持しながら介護予防、障害再発予防、疾病予防を実践し、健康寿命を延伸していくために、リハビリテーション専門職種に求められる知識および技術について広く考える基盤となる知識や考え方を教授する。</p> <p>障害の発生に関与する因子について生活環境の影響を踏まえて広くとらえ、予測的対応についてより具体的に考えるための基礎を身につけるよう教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全 15回)</p> <p>(5 吉田 剛／3回)</p> <p>障害の程度は、疾患だけで決まるわけではなく、対象者の価値感や自己管理能力など個別性のある問題が影響することが多いことを示し、まだ多くはないがそれらの側面を評価するための評価指標について教授する。また、近年死亡原因の3位にまで増えてきた肺炎の中で大半を占めると言われている誤嚥性肺炎について取り上げ、その兆候や対処方法、呼吸・嚥下機能低下の予防に関する考え方を教授する。</p> <p>(6 田中 聡一／5回)</p> <p>超高齢社会において地域在住高齢者が、健康を維持しながら介護予防、障害再発予防、疾病予防を実践し、健康寿命を延伸していくために必要な知識の一つとして障害予防の概念をまとめ、特に大きな影響を及ぼしてくる老年症候群と認知症に関する予防のためにどのような基礎知識が必要かを教授する。これらの基礎知識を深くもたせることで、多角的な視点で障害予防をとらえられるように導く。</p> <p>臨床においても地域においても認知症の問題は、単独または重複した問題として避けて通れない問題となっている。現在取り組まれている認知症の発症予防および認知症の進行予防についての考え方と取り組み方法およびその効果についてまとめて教授する。</p> <p>(8 解良 武士／3回)</p> <p>障害発生に大きく関与する生活不活発病と言われる廃用症候群の原因を追究し、ライフスタイルや地域環境との関連性などについて教授する。また、生活環境と活動性との関連性について特に起きる・立つ・歩くといった基本動作に着目して教授する。近年フレイル（虚弱）やサルコペニア（加齢性筋肉減少症）といった概念で地域虚弱高齢者のもつ問題をとらえることができるようになってきた。これらの概念やスクリーニング方法について教授すると同時に、現在どれ位の対象者がいるのか、地域で今後行っていくべき対応策などについて教授する。</p> <p>(10 中川和昌／4回)</p> <p>障害を予防するためには、障害の予後予測ができることが不可欠である。この障害の予後予測に使われる評価指標について現在使われているものを概観する。また、整形外科領域における全国的な取り組みとして行われてきたロコモ予防について、これまでの取り組み方とその効果を示し、取り組みで用いた評価指標などについて教授する。さらに、地域で行われている健康体操について、その取り組みの内容を分析し、その意義やさらにどのような観点で取り組むべきかを考える機会を与えるよう教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専	理	自立生活支援学特論	<p>(概要)</p> <p>超高齢社会において要介護高齢者が増加し、十分な介護サービスの提供も困難になってきており、介護高齢者に対して必要な介護サービスを提供するだけでなく、できるだけ本人の潜在能力を引き出すことでより自立した生活を送ることを支援していく取り組みが求められている。</p> <p>在宅生活において求められている自立生活支援サービスの現状を知り、生活に対応するために必要な広い知識を身につけ、より高い問題解決能力を有する在宅サービス指導を行うための基礎となるように教授する。</p>	オムニバス方式
			<p>(オムニバス方式／全 15回)</p> <p>(4 浅香 満／3回)</p> <p>自立支援のためには、様々な代償手段の有効利用により、身体条件の改善や生活環境の改善を図ることが不可欠である。そこで利用される補装具について、その種類と適応などの活用についての考え方について教授する。また、今後の自立支援型介護サービスのあり方について、いくつかのポイントを提示しながら考える機会を与えるよう教授する。</p> <p>(5 吉田 剛／3回)</p> <p>より自立した在宅生活を送るためには、医療機関から退院する際の退院前からの支援はとても重要である。その際に本人の動作能力と生活環境とのマッチングを図るように調整することと、本人およびそれを支える家族に対しても退院後の生活が見えるように指導することが重要である。住宅改修や福祉用具の活用、患者・家族教育に対する指導の在り方について教授する。</p> <p>(6 田中 聡一／3回)</p> <p>超高齢社会において要介護高齢者が増加し、十分な介護サービスの提供も困難になってきており、介護高齢者に対して必要な介護サービスを提供するだけでなく、できるだけ本人の潜在能力を引き出すことでより自立した生活を送ることを支援していく取り組みが求められている。この自立生活支援の考え方をまとめ、現在行われているサービスの実態を伝え、今後の自立支援の在り方を考えるきっかけとなるように教授する。</p> <p>(8 解良 武士／3回)</p> <p>自立生活支援を行うための基礎的知識として、自立生活を行う上で必要となる動作能力およびそれに必要な運動要素について、理解を深めるように教授する。また、動作能力が実際の生活場面で安全に発揮できるかどうかは、本人の自信の程度や、自己管理能力にかかっていることについて教授する。また、自立する過程で一番判断が難しい見守り～自立への段階化をどのように考えていけばよいのかについて教授する。</p> <p>(10 中川 和昌／3回)</p> <p>退院後の在宅生活を送る中で、より自立した生活を送るよう支援する方法として訪問理学療法は有効なサービスである。訪問理学療法場面の様々な実例を通して、訪問の場でどのようなことが問題になるのか、それをどのように評価しどのような考えでサービスを提供すべきか、そのために対象者やその家族、関連他職種などに対してどのような働きかけが必要なのかなど、自立生活支援の実際がわかるように教授する。</p>	
	療			
	学			
	法			
	学			
	領			
	域			
	分			
	共			
	通			
	科			
	目			

科目 区分		授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
専 門 科 目	理 学 療 法 学 領 域 共 通 科 目	地域リハマネージメント特論	<p>(概要)</p> <p>医療・介護総合確保法により、医療・介護の枠組みは大きく変わろうとしている。リハビリテーション専門職種として、これから構築されていく地域包括ケアシステムの中で、地域の課題をどのように抽出し、その問題を解決するためにどのように取り組み、連携していくのかについて広く知識を与え、地域社会に有益なサービスを提供するためのリハビリテーション専門職者としてのマネージメント能力を養うよう教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全 15回)</p> <p>(4 浅香 満/3回)</p> <p>これまでに群馬県藤岡地区で行ってきた地域リハビリテーションのシステムやネットワークづくり、行政や地域の基幹病院、保健機関の役割分担と連携、それらを発展するための定期的な取り組みに関わってきた過程を示しながら、具体的に地域の課題に対してどのように対処していくのか、複数の問題事例を取り上げ、その対処法に対する考え方を教授する。それから地域の問題を解決するためのツールの開発についても教授する。</p> <p>(5 吉田 剛/3回)</p> <p>これからの地域リハビリテーションを円滑に進めて、持続的な効果を上げていくためには、地域住民の意識を変えていくための具体的な取り組みが必要である。本人が健康知識を身につけること(自助)や地域の高齢者同士が協力し合う体制(互助)が必要であることを教授し、学んだことを生活に取り込み健康行動を変容させていく過程や、そのために活用できるツールの開発など、実効性のある地域リハビリテーションサービスを行うために必要な地域住民に対するマネージメントについて教授する。</p> <p>(6 田中 聡一/4回)</p> <p>まず、今変化してきている医療・介護体制について概観し、今後の医療・介護の方向性やどのような取り組みが必要になってくるかを教授する。また、行政においてどのように地域計画が策定されているか、行政はどのように地域の問題をとらえているのかについて、群馬県および県内市町村の現状を例にとりて教授する。地域リハビリテーションサービスを提供するために必要な多職種連携を行うための方法について、連絡票やカンファレンスなどの活用するツールについても教授する。また、地域リハビリテーションサービスにおいては、地域住民の中に自助・互助の考え方が浸透していくことが大切であることについて教授する。</p> <p>(10 中川 和昌/5回)</p> <p>すでに始動し始めている地域包括ケアサービスは各地で様々な先進的取り組みがなされている。これらの事例はその地域性(地域住民の意識や資源)によっても特徴付けられているため、いくつかの特徴的な事例を提示し、その中でどのような課題が残っているのか、この地域に合致するスタイルはどれか、今後どのような展開が望まれるのかなど、いくつかのポイントに分けて考える機会を与えるように教授する。また、地域によって異なる問題をもつ地域の実情をどのように把握し、正しく地域の問題を抽出していきながら、地域の実情に合った必要とされる地域リハサービスを行うことができるように、リハビリテーション専門職種である理学療法士としては、どのように地域の実情を捉えていったらよいか、また、理学療法士が行政に対して積極的に関与していくためには、どのようなマネージメント能力を必要とされるのかについて教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	理学療法学領域共通科目	障害評価・解析学特論	<p>(概要)</p> <p>まだまだエビデンスが少ないと言われている臨床理学療法学分野において、対象者の障害をより正確にとらえ、改善を図りながらその効果を判定するために障害の評価法の開発が不可欠である。リハビリテーション分野で用いられている様々な評価法および評価指標を整理し、障害の全体像を把握するためおよび個々の問題を解決するために必要な評価・解析方法について、より具体的に理解する。</p> <p>問題解決のためには、病態を把握し問題となる原因を特定することが求められる。また、効果判定をより科学的に検証するために必要な要件について考え、新たな視点で評価・解析を行うための基盤を作る。</p> <p>(オムニバス方式／全 15回)</p> <p>(3 居村 茂幸／4回)</p> <p>臨床理学療法学領域で用いられている様々な評価法および評価指標を整理しながら、障害の全体像を把握するためおよび個々の問題を解決するために必要な問題解決型の評価・解析について概観しながら教授する。また、特にテーマ別の評価・解析方法の整理では、専門とする内部障害に関する評価・解析法について教授する。現在、理学療法分野で広く用いられている評価法や解析法には、様々な問題や限界が存在していることを教授することで新たな評価指標の必要性についても教授する。さらに、リハビリテーションの最終目標である生活につなげるための生活面の問題をとらえるための理学療法評価法について、特に専門である内部障害系疾患患者について教授する。内部障害系疾患患者ならではの生活上の問題の特徴は何なのか、それををどのように捉えて評価すればよいのかについて教授する。</p> <p>(8 解良 武士／2回)</p> <p>理学療法士にとっては、臨床における動作解析から得られる情報は多いが、どのような視点で動作を解析するか、どのように情報化していくかについては、課題も多いのが実情である。臨床研究でも用いられている動作解析について概論を教授したうえで、現在の機器やアイテムを用いて、どのような情報を得ることができるのか、どのような情報が必要にもかかわらず手段がないのかなどを把握できるように教授する。</p> <p>(9 竹内 伸行／3回)</p> <p>臨床理学療法場面における問題解決型の評価・解析方法について、科学的検証を行うためにどのような要件を包含する必要があるのか、その測定方法や結果の扱い方についても教授する。また、十分な評価指標がない現状において、新たな評価・解析方法の開発が急務であるため、その開発を行う際に留意すべきポイントやその指標の信頼性や妥当性の証明の方法などについての考え方を整理して教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	理学療法領域共通科目		<p>(11 樋口 大輔/4回)</p> <p>臨床理学療法場面において、特にテーマ別の評価・解析方法の整理では、専門とする運動器疾患についての評価・解析方法について概観して教授する。また、リハビリテーションの大きな阻害因子である痛みの問題については、主観的評価が中心であり、その評価方法もさまざまである。これらの状況を踏まえたうえで、特に痛みの原因や全身との関連性についての考え方を教授する。また、リハビリテーションの最終目標である生活につなげるための生活面の問題をとらえるための理学療法評価法について、特に専門である運動器系疾患患者について教授する。運動器系疾患患者ならではの生活上の問題の特徴は何か、それをどのように捉えて評価すればよいのかについて教授する。</p> <p>(12 篠原 智行/2回)</p> <p>臨床理学療法場面において特にテーマ別の評価・解析方法の整理では、神経系疾患についての評価・解析方法について、これまで用いられてきたものと新しく用いられてきているものを整理して教授する。また、神経系疾患患者の生活面の問題を捉えるために疾患特異性のある評価方法を考えていく必要がある。神経系疾患患者の生活の中で生じてくる問題の特徴は何か、それをどのように評価すればよいのかについて教授する。</p>	
		臨床推論特論	<p>(概要)</p> <p>臨床理学療法場面で直面する問題を適切に解決するためには、エビデンスに基づいて適切で妥当な思考過程を踏んで解決策に近づけていく能力が必要である。臨床問題の解決に向けた臨床思考過程の実際について、そこで必要となる基礎知識と事例検討を通してより具体的に教授する。これにより、臨床および地域理学療法場面における様々な問題の原因を追究するための思考能力を養い、問題解決能力を高めていくことで臨床実践能力向上につなげていけるように教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全 15回)</p> <p>(3 居村 茂幸/4回)</p> <p>臨床推論を行う際にどのように情報を収集し、多角的視点をもって問題点を抽出し、問題を構成する要素間の関連性を明らかにして、核となる問題に対するアプローチを行い、その反応から仮説を修正していくといった思考過程についての考え方を教授する。特に廃用症候群の予防を考える際の考え方について、臨床推論を行うのに必要な基礎知識を与えながら、事例検討を行い、より実践的な推論能力を高めるよう教授する。</p> <p>(5 吉田 剛/2回)</p> <p>誤嚥性肺炎の予防については、口腔ケアだけでなく、呼吸と嚥下の協調性や、呼吸・嚥下機能の維持・向上など多因子に対する対応が必要である。呼吸理学療法を行うだけでなく、嚥下理学療法を対応させていくなどの対応を行うために必要な基礎知識と事例検討を通して、その臨床推論過程を教授する。</p> <p>(8 解良 武士/3回)</p> <p>理学療法士が特に主体となって取り組む基本動作について、その阻害因子を特定し、具体的な対応を行っていくためには、高い臨床推論能力が必要となる。まずは基本動作の障害に関する基礎知識について教授する。次に、様々な障がいにおける基本動作を起居動作と歩行動作に分けて事例検討を行い、具体的かつ実践的な臨床推論の実際を教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	理学療法領域共通科目		<p>(9 竹内 伸行/2回)</p> <p>痛みは身体的な不活動につながるだけでなく、心理精神面の退行をも引き起こすリハビリテーション阻害因子の大きな問題の一つである。対象者の痛みの解決に向けて解決方法を考える際の考え方について、臨床推論を行うのに必要な痛みの原因やメカニズムといった基礎知識を与えながら、事例検討を行う過程を通して臨床推論能力を高めるよう教授する。</p> <p>(10 中川 和昌/2回)</p> <p>認知症は、多くの高齢者が併せもつ社会的な問題として、リハビリテーションの大きな対象の一つである。認知症の発症予防と進行予防の両面における認知症予防を考える際の考え方について、臨床推論を行うのに必要な認知症の種類や病態、現在行われている治療法などの基礎知識を与えながら、事例検討を行う際の臨床推論能力を高めるよう教授する。</p> <p>(11 樋口 大輔/2回)</p> <p>高齢者の機能低下を招く要因として重要な転倒について、転倒の原因を個別に究明して対応策を講じられるように転倒に関連する因子についての基礎知識を教授し、転倒予防を考える際の考え方について事例検討を行う過程を通して臨床推論能力を高めるよう教授する。</p>	
		理学療法実践学特論	<p>(概要)</p> <p>最新のエビデンスに基づく理学療法の実践方法についての知識を身につけ、臨床における問題解決能力を高め、正しく解決方法を選択するための基礎を身につけ、臨床場面に生かすことができるようになるためには、各領域の理学療法実践に関する最新の知識を総合的に身につけ、個別性をも考慮した適切な実践方法の選択が必要である。各疾患系に特有の実践方法及びエビデンスについて教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全 15回)</p> <p>(3 居村 茂幸/2回)</p> <p>これまでの理学療法実践に関するエビデンス構築の状況を概観しながら、実践は行われているものの効果の証明がなされていない介入方法などがある状況について教授する。また、エビデンス構築が困難な理由を挙げ、今後の理学療法実践の中で、どのようなデータ蓄積および集約が必要なのか概論的に教授する。</p> <p>(5 吉田 剛/4回)</p> <p>専門とする神経系理学療法におけるエビデンスを各種ガイドラインなどに基づいて整理し、それらに対する理学療法実践方法について実例をあげながら教授する。特に近年取り組まれているニューロリハや再生医療を取り上げて、最新の実践方法について教授する。また、誤嚥性肺炎の予防についての最新のアプローチ方法および嚥下分野における理学療法に関するエビデンスを整理し、それらに対する予防実践方法について実例をあげながら教授する。</p> <p>(7 小林 勉/1回)</p> <p>いわゆるロコモティブシンドロームなども含んだ運動器疾患に対する運動器障害系理学療法を行ううえで重要となる整形外科的評価および理学療法評価や術式、疾患に対する治療に関するエビデンスなどを整理し、理学療法実践につなげるための基礎知識について整形外科医の立場から教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専	理	理学療法領域共通科目	(8 解良 武士／3回) 循環器や呼吸器、代謝系疾患などの内部障害系理学療法を行ううえで重要となる評価や疾患に対する治療に関するエビデンスを整理し、理学療法実践につなげるための基礎知識について教授する。また、それらの内部障害系疾患に対する理学療法におけるアプローチ方法に関するエビデンスを整理し、各種ガイドラインで推奨されている実践方法の整理と、まだエビデンスはないが注目されている最新の実践方法について教授する。	
門	学		(9 竹内 伸行／2回) 近年、痛みや筋緊張の改善などに関する効果が見直され注目されてきている物理療法について、最新の物理療法の紹介とアプローチ方法に関するエビデンスを整理し、より改善効果を高めるための実践方法について教授する。	
科	法		(10 中川 和昌／1回) 最近大きな進歩を遂げている認知症の発症予防および認知症の進行予防といった観点から認知症予防についてのアプローチ方法に関するエビデンスを整理し、有酸素運動療法や二重課題運動療法などの新たな理学療法実践方法について教授する。	
目	学		(11 樋口 大輔／2回) いわゆるロコモティブシンドロームを中心とした運動器疾患に対する運動器系理学療法におけるアプローチ方法に関するエビデンスを整理し、また運動器障害で大きな問題となる痛みの除去についてのアプローチ方法に関するエビデンスの整理と実践方法についても教授する。	

科目 区分		授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
専 門 科 目	理 学 療 法 学 分 野	地 域 理 学 療 法 学 領 域	<p>地域リハビリテーション特論</p> <p>(概要)</p> <p>地域リハビリテーションは、介護予防、健康増進、疾病予防、地域作りなど、今や多岐にわたる重要な位置づけのものとなっており、その内容は日々変化している。この講義では、地域リハビリテーションの理念や歴史を教授し、国内各地で行われている事例や海外での事例を知ることによって現在の地域の状況や課題について学ばせ、自ら地域理学療法学研究に必要な課題を見つけることができる基礎知識を教授する。</p> <p>(オムニバス方式／全15回)</p> <p>(4 浅香 満／1回)</p> <p>地域リハビリテーションにおいては、様々な職種や地域在住ボランティアなどの人材が地域の問題に関する共通の認識をもって取り組むことができるように人材を育成していくことが急務である。どのようにして地域リハビリテーションに従事する人材を育成するかについて教授する。</p> <p>(5 吉田 剛／2回)</p> <p>地域リハビリテーションに関わる職種は多岐にわたるが、代表的な職種が現在どのようなプログラムで地域リハビリテーション教育を受けているのか、理学療法士教育のものと比較しながら教授する。また、地域リハサービスの中でも通所サービスに焦点を当てて、現在どのように実施されていて、どのような問題点が生じているのかを分析しながら教授する。</p> <p>(6 田中 聡一／3回)</p> <p>地域リハビリテーションの理念と歴史を振り返り、現在までの変遷が生じてきた背景を理解するよう教授する。そのうえで地域リハビリテーションの現状を多角的にとらえさせ、様々な原因で生じる地域間格差やそれぞれがもっている課題について教授する。また、地域リハビリテーションに必要な各種専門職者同士の間で行うべき地域連携について、概論的に教授したのちに、実際に行われているクリティカルパスウェイの役割と問題点を踏まえて、医療、介護、保健の各分野が機能的に連携していくためにはどのような対応が必要なのかを考えさせるように教授する。これらの講義を通して、在宅におけるリハビリテーションを支えるための連携がどうあるべきか多角的に基礎知識を教授する。</p> <p>(8 解良 武士／2回)</p> <p>地域リハサービスの中で、これまで健康増進に関する取り組みはどのように進められてきたのか、健康増進に関する取り組みの歴史を概観したうえで、最近の健康増進の取り組みの変化や今後どのように健康増進について取り組んでいくことが望まれているのかについて教授する。また、最近の予防対策の必要性の中で、特に疾病予防対策及び再発予防対策に関する取り組みを整理して教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 地域理学療法学分野		<p>(10 中川 和昌/6回)</p> <p>地域づくりに貢献する行政の代表事業である地域リハビリテーション支援体制整備事業を学習させ、我が国におけるこれからの地域づくりの理念、現状、課題について教授する。また、諸外国のものと我が国の取り組みをその背景の違いを踏まえたうえで比較させて教授する。また、健康増進、疾病予防、介護予防に重要な役割を果たす、地域住民への啓発、教育について学習指導する。地域保健施策について、その地域レベル、都道府県レベル、国レベルの理念と現状、課題について教授し、2025年をめぐり厚生労働省が構築推進する地域包括ケアシステムについて学習指導する。さらに、その中で訪問サービスや地域ケア会議の在り方について教授する。</p> <p>(12 篠原 智行/1回)</p> <p>地域リハビリテーションサービスもその財源については、年々厳しくなっており、どうやって費用対効果に優れた地域リハビリテーションを行うかが行政にとっても大きな課題である。どうやって効果判定を行うのか、どのように最小限の費用で最大限の効果上げる地域リハビリテーションサービスにするのか、その視点について教授する。</p>	
	地域理学療法学分野 地域理学療法学特論	<p>(概要)</p> <p>地域理学療法は、介護予防、健康増進、疾病予防、地域作りなど、今や多岐にわたる重要な位置づけのものとなっており、多面的なしっかりとした基礎知識が必要になる。この講義では、地域理学療法実践にかかわる専門職者の働きと技術について教授する。また、運動機能障がい、神経系障がい、高次脳機能障がい、内部障がい、認知症についての地域理学療法研究の動向を知ると共に、疾病予防から介護予防まで、現在取り組まれている地域理学療法研究の実践を学ぶことで、学生が行う地域理学療法研究の基盤を作るように教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全15回)</p> <p>(4 浅香 満/4回)</p> <p>地域理学療法実践に関わる理学療法士は、どのような制度の中でどのような制約を受けながら実践を行っているのか、その現状を分析し、新しい仕組みに移行していくこの時期に、理学療法士がどのようにかかわっていくべきなのかを概論的に教授する。地域理学療法に従事するために必要な知識と技術にはどのようなものがあるのかについても教授する。また、同時に地域理学療法実践に必要な基礎知識と基本的な技術について教授する。また、新たな視点でより工夫された福祉用具の開発などについて指導する。</p> <p>(5 吉田 剛/1回)</p> <p>特に専門とする神経系障がいに関する地域理学療法研究の実践について概観しながら教授する。脳卒中などの神経系障がいは、医療終了後も障害の病態が経時的に変化しやすく、それに伴い活動性にも影響を与えるため、地域理学療法の中でも通所・訪問・在宅などの場面で、どのように機能維持及びQOL向上をはかる取り組みがなされているか、またそれらのアプローチのエビデンスはあるのかなどについて教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考	
専門科目	理学療法分野	地域理学療法学領域	<p>(6 田中 聡一／3回)</p> <p>地域理学療法実践および研究に必要な知識について、リハビリテーション医学の観点から、特に日本の地域リハビリテーションの中で大きな問題となっている認知症、高次脳機能障がいに焦点を当てて、それらに対する研究がどのように展開されているのかについて、その基礎および研究方法を教授する。また、健康寿命の延伸に大きな影響を与える疾病予防に関する基礎とそれらの問題に対する研究方法について教授する。</p> <p>(8 解良 武士／1回)</p> <p>地域理学療法実践および研究の中で、特に専門とする内部障害系理学療法学研究について、機能維持のための取り組みはどのように行われているのか、この分野における再発予防などに対する研究がどのように展開されてきたか教授する。</p> <p>(10 中川 和昌／6回)</p> <p>ロコモ予防などを含んだ運動機能障がいに関する地域理学療法研究の実際について概観しながら教授する。また、地域理学療法研究の中でも一番多くなっているのは、介護予防に関する研究である。これについては2回に分けて研究の流れを分類して教授する。さらに、地域理学療法のシステムに関する研究、地域理学療法に関与する人材育成に関する研究、地域理学療法実践に関する研究報告などに分けて、地域理学療法学研究がどのように行われているかについて教授する。</p>		
			地域リハビリテーション演習	<p>(概要)</p> <p>この演習では、地域リハビリテーション特論で学習した知識を生かし、各自の研究課題を適切に探索し、選択できるようにするための、情報収集の方法について教授する。そして、得られた情報と知識を基にした、エビデンスの高い研究計画を策定していく過程で質の高い発表および討論ができる能力を身につけるよう指導する。また、実際に近隣行政で行われている地域リハビリテーション活動に数回参加して、その活動報告を行う過程を通して、自分の研究テーマが具体的にどのように役立つかを考える場を与える。</p>	共同担当方式
			地域理学療法学演習	<p>(概要)</p> <p>この演習では、地域リハビリテーション特論、地域理学療法学特論、地域リハビリテーション演習で学習した知識を生かし、各自の研究テーマを明確化させ、最終的には地域理学療法学研究の研究計画を立案することを演習を通して実現する。そのためには、必要な情報収集、取り上げるべき問題点の整理、研究で使用する評価指標の選定、研究方法の具体化などの過程を通してを実際に演習しながら、各自の研究テーマ決定に即した実践指導をする。そして、それらの過程を通して研究テーマを決定させ、他の者にそのテーマの意義と重要性が伝えられるプレゼンテーションができると共に、妥当な研究方法を提示することができるよう指導する。</p>	共同担当方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	理学療法分野	地域理学療法学 特別研究	<p>(概要)</p> <p>地域理学療法分野の研究で、地域連携、地域リハビリテーション組織構築、運動および高次脳機能に対する地域理学療法、地域住民への啓発および教育に関するものなどを中心に、地域理学療法学研究で意義あるものを研究実施させる。研究テーマの選択、それに対する研究立案と実施、学術論文などによる研究報告を学生が自主的にできるよう指導する。</p> <p>(4 浅香 満)</p> <p>これまで地域リハビリテーションシステムの構築に関わってきた経験を生かし、他職種と連携して、どのような手順を踏んでシステムを構築していけばよいのか、新しいシステムの果たす効果をどのように検証してPDCAサイクルを回していけばよいのかなどについて研究指導を行う。また、どのようなサービスが地域で必要とされているかニーズを抽出するための調査研究についても研究指導を行う。</p> <p>(5 吉田 剛)</p> <p>地域における誤嚥性肺炎予防を主体とした取り組みを広げていくために、潜在している誤嚥危険者がどの程度いるのか、それをどのようにピックアップしていけばよいのか、予防を行う必要性のある運動要素は何かを明らかにする研究を指導する。また、効果的で簡便な評価方法の開発と予防教育普及のためのツールの開発などに取り組み、地域理学療法における予防理学療法の一つとしてエビデンスの蓄積をしていくための研究を指導する。</p> <p>(6 田中 聡一)</p> <p>地域リハビリテーションの入り口の1つである、病院から地域への社会復帰時に必要な、効率的な入院時リハビリテーションと入院生活の開発と効果検証、および安全性、経済効果などを理学療法の視点から研究指導する。</p> <p>リハビリテーション医学の視点での地域住民への運動、高次脳機能に対するリハビリテーション介入の計画立案、効果検証を研究指導する。</p> <p>また医師の立場から、地域リハビリテーション推進に寄与する専門職者としての理学療法士の調査研究を指導する。</p> <p>(8 解良 武士)</p> <p>地域在住の内部障がい者の障害予防や再発予防について特に注目し、退院後の生活の中で呼吸・循環・代謝などの面での機能維持を図ることで運動機能の低下予防にもどのようにつながっていくのか、また、QOLを高めるために、どのような評価やアプローチが必要になるかについて研究指導を行う。さらに、高齢者の転倒予防や介護予防に関する理学療法アプローチのエビデンスを構築するための研究についても指導する。</p> <p>(10 中川 和昌)</p> <p>地域および国際の両視野から、スポーツ傷害予防、健康増進、CBR、CBEに関して学習指導する。特に運動機能面における効果的な評価法、トレーニング内容、介入効果、教育効果等について検証し、広い視野で地域住民が抱える問題点の解決策を模索・迫る姿勢を指導する。</p> <p>(12 篠原 智行)</p> <p>これまで医療機関で行ってきた理学療法サービスと退院後の生活状況との関係に焦点を当てて、退院後の生活を左右する因子の検討やその評価方法の検証を通して、地域理学療法への受け渡しの過程に関する研究指導を行う。また、介護予防事業への関わりから抽出された行政と専門職種との連携の在り方についても研究指導を行う。</p>	共同分担方式
			地域理学療法学領域	

科目 区分		授業科目の名称	講 義 等 の 内 容	備 考
専 門 科 目	理 学 療 法 学 分 野	臨 床 理 学 療 法 学 領 域	<p>臨床理学療法学特論 I</p> <p>(概要)</p> <p>臨床の理学療法場面において用いられている評価指標の開発に関する方法論を教授し、臨床における問題解決や効果判定に生かすための評価指標づくりを行うための基礎について教授する。</p> <p>特に、帰結評価として用いるべき評価項目は何かについて、機能障害・能力障害面の評価による効果判定を踏まえて、さらに生活自立度、QOL向上、医療経済への影響についても広い視点をもって考える機会を与える。</p> <p>これにより、既存の評価指標を踏まえて、新しい評価指標を開発するための基礎を身につけさせるように教授する。</p> <p>(オムニバス方式/全 15回)</p> <p>(3 居村 茂幸/6回)</p> <p>臨床の理学療法場面における問題分析の方法を教授し、どのような視点で研究テーマを考えればよいのかについて教授する。特に専門とする内部障害系疾患における臨床評価項目について、最新の情報を教授すると同時に臨床評価項目の開発事例を通して、開発手順や信頼性及び妥当性の検証などについて教授する。さらに介入効果判定のための帰結評価について、機能障害と能力障害に対する帰結評価項目の開発事例を複数挙げて、評価指標の開発に関する指導を行う。臨床理学療法研究の中で、より臨床的な視点から新たな評価指標を生み出していくための基盤を作るように教授する。</p> <p>(5 吉田 剛/1回)</p> <p>臨床の理学療法場面における問題分析の方法を教授しながら、特にこれからの臨床理学療法で取り組むべき大きな課題である障害予防に必要な評価についてその構成要素は何か、障害予防の研究に資するように考えさせながら教授する。また、臨床理学療法における研究を考えるうえで必要となる新たな評価指標について、その開発のための研究につなげるように教授する。</p> <p>(7 小林 勉/2回)</p> <p>特に整形外科疾患における病態を把握するための臨床評価項目について、最新の情報を教授すると同時に新たな臨床評価項目の開発事例を通して、開発手順や信頼性及び妥当性の検証などについて紹介しながら、より正しく病態を把握し、分類していきけるように教授する。</p> <p>(9 竹内 伸行/3回)</p> <p>臨床理学療法において、特に専門とする神経系疾患における臨床評価項目について、最新の情報を教授すると同時に臨床評価項目の開発事例を通して、開発手順や信頼性及び妥当性の検証などについて教授する。さらに介入効果判定のための帰結評価について、機能障害と能力障害に対する帰結評価項目の開発事例を複数挙げて、評価指標の開発に関する指導を行う。</p> <p>(11 樋口 大輔/3回)</p> <p>臨床理学療法における介入研究の中で、特に運動器系理学療法領域の臨床場面における治療と介入効果判定のための評価の過程から、機能障害と能力障害の開発事例を複数挙げて、新たな視点から評価指標を考える機会を提供するよう教授する。また、臨床理学療法を行ううえで重要な目標の一つである生活自立度向上とQOL向上については、単に既存のADL評価を行うだけでなく、自立の概念から考え直して新たな評価の指標を考えていくことが必要である。どのような項目をどのような尺度で評価することができるのかについて考え、評価構成要素として教授する。さらに、疾患や障がいによって特殊性があるQOLを向上させるためには、どのような構成要素がQOL向上に必要なのかを教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 理学療法学分野 臨床理学療法領域	臨床理学療法学特論Ⅱ	<p>(概要)</p> <p>臨床の理学療法場面における介入研究について、最新の情報を整理すると同時に、問題解決につながる介入方法を検討するための基礎について教授する。さらに、介入研究を行う際にどのような準備が必要か、研究デザインの選択、介入効果の検証に用いる帰結評価の選定などについて、文献的に検証しながら、臨床理学療法における介入研究を行うための基礎的知識を身につけるよう指導する。</p> <p>(オムニバス方式/全 15回)</p> <p>(3 居村 茂幸/8回)</p> <p>臨床理学療法場面における介入方法の検討について最近の研究方法を概観して教授する。また、臨床理学療法における介入研究のプロセスをより具体的に教授する。特に介入研究を行う際にどのような準備が必要か、研究デザインの選択、介入効果の検証に用いる帰結評価の選定、シリーズ研究によるエビデンス構築過程などについて、文献的に検証しながら、臨床理学療法における介入研究を行うための基礎的知識を身につけるよう指導する。また、臨床理学療法における新たな介入方法の開発と効果検証のための臨床理学療法学研究について教授する。</p> <p>(5 吉田 剛/2回)</p> <p>臨床理学療法における介入研究の中で、特に最新の嚥下障害に対する理学療法介入研究と誤嚥性肺炎予防などに関わる評価、介入の実際について最新の知見を教授する。また、最新のニューロリハビリテーションで用いられる代表的なアプローチ法について整理しながら、介入効果の検証について今まで行われてきた研究手法を挙げて教授する。</p> <p>(8 解良 武士/1回)</p> <p>最新の循環器系疾患、呼吸器系疾患、代謝系疾患などの内部障害領域の疾患に対する臨床理学療法介入についてその研究デザインや介入方法、帰結評価の選択などについて整理し、最新の臨床理学療法介入研究の動向を踏まえて教授する。</p> <p>(9 竹内 伸行/2回)</p> <p>臨床理学療法の中で、特に痙縮に対する理学療法アプローチについて触れ、また近年大きく見直されてきている物理療法を用いた介入研究についての最新の情報を整理し、その研究デザインや介入方法、帰結評価の選択などについて整理し、介入研究の研究方法について教授する。</p> <p>(11 樋口 大輔/2回)</p> <p>最新の整形外科領域における理学療法介入について、その研究デザインや介入方法、帰結評価の選択などについて整理し、最新の理学療法介入研究の動向を踏まえて教授する。また、臨床理学療法において大きな障害因子となる疼痛に対する最新のアプローチ法についてエビデンスを含めて情報を整理すると共に、その研究デザインや介入方法、帰結評価の選択などについて整理し、介入効果の検証について教授する。</p>	オムニバス方式

科目区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 理学療法学分野 臨床療法学領域	臨床理学療法学演習 I	<p>(概要)</p> <p>臨床理学療法学特論で学んだ内容を踏まえて、理学療法士の立場で臨床における問題点を抽出すると同時に、それらの問題について明確に評価するための評価指標の検討を行うよう指導する。また、各自の興味ある分野の問題に焦点を当てて、問題解決に必要なプロセスについての理解を深め、研究テーマの絞り込みと関連論文の考証、使用する評価指標の選択および新たな開発の準備などについて指導する。これらの過程を通して、研究テーマを絞り込み、その概要を理解させるよう指導する。</p>	共同担当方式
	臨床理学療法学演習 II	<p>(概要)</p> <p>臨床理学療法学特論 I および臨床理学療法学演習 I で学んだ内容を踏まえて、臨床における研究課題について具体的な解決方法を見出し、必要な介入方法についての検討を進めるよう指導する。さらに、妥当な問題解決方法を模索し、他者に分かるような論理構成で、科学的手法を用いた研究計画を作成するための準備を行わせ、研究計画書の作成過程を指導する。</p>	共同担当方式
	臨床理学療法学特別研究	<p>(概要)</p> <p>臨床における問題を解決するために行う臨床理学療科学研究について、研究計画に基づき倫理的配慮を行いながら、科学的手法を用いてデータ収集を行い、問題解決に必要な分析を行い、結果の整理、結果に関する考察などについてまとめて、他者に分かるように表現する方法を学ぶ。</p> <p>この研究指導課程を通して、自己客観性を身につけ、科学的思考力を身につけることで、研究者としての素養を身につける。</p> <p>(3 居村茂幸)</p> <p>特に内部障害系疾患について、臨床評価指標の開発や、有効なアプローチ方法の開発及びエビデンスの構築に寄与するために研究指導を行う。このために必要な、問題分析とそれに基づいた研究計画の立案、先行研究のレビュー、研究遂行、データ解析、成果の報告について教授する。</p> <p>(7 小林 勉)</p> <p>特に整形外科領域に関するリハビリテーションアプローチの中核である理学療法治療および評価法に関する研究についての研究指導を行う。その過程で、高い臨床実践能力および問題解決能力を習得できるように指導する。このために必要な、問題分析とそれに基づいた研究計画の立案、先行研究のレビュー、研究遂行、データ解析、成果の報告について教授する。</p> <p>(9 竹内 伸行)</p> <p>特に物理療法や痙縮に関する一連の研究を通して、高い臨床実践能力および問題解決能力を習得できるように指導する。この実現のために必要な、現存する問題の分析とそれに基づいた研究計画の立案、先行研究のレビュー、研究遂行、データ解析、成果の報告について教授する。</p> <p>(11 樋口 大輔)</p> <p>特に脊髄障害によって生じる痛みやしびれなどの神経症状に関する研究を行い、信頼性のある評価方法の検討やそれらの症状が動作パフォーマンスや生活に与える影響に関する研究について指導を行う。その過程で臨床で生じる問題の捉え方やそれらに対するエビデンスの高いアプローチ方法を模索し、理学療法士として高度な問題解決能力を身につけるように指導する。</p>	共同担当方式

科目区分		授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	理学療法学分野	臨床療法学領域	<p>(13 千木良 佑介)</p> <p>特に内部障害系疾患に対する評価および治療に関するエビデンスを構築するための研究を指導する。呼吸器疾患や循環器疾患、透析患者などに対して、QOLを高めるためにはどのような面を改善させていく必要があるのか、その要素を明らかにしていく研究を指導する過程を通して、臨床で生じる問題の捉え方やそれらに対するエビデンスの高いアプローチ方法を模索し、理学療法士として高度な問題解決能力を身につけるように指導する。</p>	
			<p>(14 生方 瞳)</p> <p>特に女性領域の様々な障がいに対する研究に取り組み、世界的な流れからかなり遅れている日本のウィメンズヘルスに対する取り組みを推進していくように研究・指導を行う。また、これらの取り組みを通して臨床で生じる問題の捉え方やそれらに対するエビデンスの高いアプローチ方法を模索し、理学療法士として高度な問題解決能力を身につけるように指導する。</p>	

学校法人高崎健康福祉大学 設置認可等に関わる組織の移行表

平成29年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成30年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更の事由
高崎健康福祉大学				高崎健康福祉大学				
健康福祉学部				健康福祉学部				
医療情報学科	70	2年次 2 3年次 2	290	医療情報学科	70	2年次 2 3年次 2	290	
社会福祉学科	60	2年次 5 3年次 5	265	社会福祉学科	60	2年次 5 3年次 5	265	
健康栄養学科	80	—	320	健康栄養学科	80	—	320	
薬学部				薬学部				
薬学科	90	—	540	薬学科	90	—	540	
保健医療学部				保健医療学部				
看護学科	100	—	400	看護学科	100	—	400	
理学療法学科	40	—	160	理学療法学科	40	—	160	
人間発達学部				人間発達学部				
子ども教育学科	80	3年次 5	330	子ども教育学科	80	3年次 5	330	
計				計				
	520	2年次 7 3年次 12	2,305		520	2年次 7 3年次 12	2,305	
高崎健康福祉大学大学院				高崎健康福祉大学大学院				
健康福祉学研究科				健康福祉学研究科				
医療福祉情報学専攻 (M)	3	—	6	医療福祉情報学専攻 (M)	3	—	6	
保健福祉学専攻 (M)	3	—	6	保健福祉学専攻 (M)	3	—	6	
食品栄養学専攻 (M)	4	—	8	食品栄養学専攻 (M)	4	—	8	
保健福祉学専攻 (D)	3	—	9	保健福祉学専攻 (D)	3	—	9	
食品栄養学専攻 (D)	2	—	6	食品栄養学専攻 (D)	2	—	6	
薬学研究科				薬学研究科				
薬学専攻 (D)	3	—	12	薬学専攻 (D)	3	—	12	
保健医療学研究科				保健医療学研究科				
看護学専攻 (M)	6	—	12	看護学専攻 (M)	6	—	12	
				<u>理学療法学専攻 (M)</u>	<u>3</u>	—	<u>6</u>	専攻の設置 (認可申請)
計				計				
	24	—	59		<u>27</u>	—	<u>65</u>	